

地魚、もったいないプロジェクト）し、メディア等を通じて魅力をアピールし販路が拡大されました。本市の漁業の振興、また市内の道の駅の活性化に大いに参考になりました。



【萩市】

【阿武町】

阿武町は、山口県の北部に位置して日本海に面し、陸地部分は萩市に囲まれています。町の面積は115.95km²で第一次産業が主体の町です。『うもれ木の郷』は平成9年2月に宇生賀地区（伊豆、三和、上万、黒川）の4集落、66戸の構成員でスタートしました。宇生賀地区は堰止湖であるため、全域が湖成堆積物からなる強湿地帯であり水はけが悪く畑作物の栽培が困難な状況でありました。このため、担い手となる法人の農地の利用集積を図ることで、4集落に跨

る農地を一括管理する『一団地一農場方式』を構築され大型機械化体系を実現し、高収益作物の導入を推進されました。また4集落の女性が共に活動するサークル（四つ葉サークル）が組織され、地場産大豆を使った豆腐の製造などの6次産業化に取り組みられています。大学生や企業、地元の小中学生とも交流を行い、宇生賀地区をアピールし、イターンでの新規就農者の受け入れも行われています。全国的に農業従事者の高齢化、後継者不足など、農業を取り巻く環境は日々厳しさを増しています。その中で、集落を跨いだ農事組合法人の設立や、女性の力を活かした6次産業化の推進をしてきた『うもれ木の郷』の取り組みは、本市での今後の農業の活性化に大いに参考になるものでした。

【電源開発(株)若松総合事業所】

若松総合事業所は昭和38年に電源開発(株)の初の火力発電所として運転開始した『若松火力発電所』が前身。平成元年に火力発電所として役割を終え、現在では石炭灰による埋立事業、技術開発、人材育成等の拠点として、将来の事業展開を見据えた活動が行われています。若松総合事業所の敷地面積は約190haで、既埋立地85ha、埋立中106haなっており、松浦火力発電所と西海市の松島火力発電

所からも運ばれる石炭灰を使って埋立が行われています。その埋立地の一部を利用しカゴメ(株)と共同で響灘(ひびき灘)菜園(株)が設立され、西日本最大のトマト栽培施設を経営しています。総面積8.5haの大規模温室で年間最大3千トンのトマトを生産し、ピーク時には180人、常時50～160人が雇用され

特別委員会の動き

西九州自動車道整備促進特別委員会

平成28年12月9日に委員会を開催し、西九州自動車道松浦IC(仮称)のアクセス道の整備について、理事者から説明を受けました。

松浦IC(仮称)の開通(平成30年度予定)にあわせ、国道204号からのアクセス道の整備を県の事業で実施するとの説明を受けました。この整備により、市街地へのアクセス性の強化を図り、開通後の利便性の向上につながることでした。また、あわせて現在の松浦バイパス入口にある別荘踏切を移設(廃止)し、アクセス道に新たな踏切を設置すると説明を受けました。

議員定数等特別委員会

平成29年1月13日、1月30日、2月15日及び2月24日に委員会を開催し、議員定数等について協議を行いました。

合併から10年以上が経ち人口減少が続く中、適正な議員定数について他市の状況と比較しながら様々な角度から検証し、各委員から意見が出されました。

その結果、議員定数については委員会として次回的一般選挙から17人とすることに決定しました。

国内有数の火力発電所を有する本市にとって、石炭灰の活用は大変興味深いものであり、今後の活用法について大いに参考となりました。

ています。その他、微細藻類を活用したグリーンオイルの開発や高度排煙処理技術開発などが行われています。